

内村鑑三著「代表的日本人 - 中江藤樹(村の先生) - 」

岩波文庫(ワイド版)、岩波書店 1997年9月16日刊を読む

昔の日本の教育

1. 私どもには学校教育があった。それもなかなかのものだ。私どもは(モーセの)「十戒」のうち少くとも八戒は、母の膝にいる間に父の口から学んでいるのである。

力は正義でないこと

天地は利己主義のうえに成り立ってはいないこと

泥棒はいかなるものでもよろしくないこと

生命や財産は、結局のところ私どもにとり最終目的にはならないこと

その他多くのことを知った。

2. 学校もあり教師もいたが、それは諸君の大いなる西洋にみられ、今日わが国でも模倣しているような学校教育とはまったくちがったものである。

まず第一に、私どもは、学校を知的修練の売り場とは決して考えなかった。修練を積み重ねれば生活費が稼(かせ)げるようになるとの目的で、学校に行かされたのではなく、真の人間になるためだった。私どもは、それを真の人、君子と称した。英語でいうジェントルマンに近い。

3. さらに私どもは、同時に多くの異なる科目を教えられることはなかった。私どもの頭脳が二葉しかないことには変わりなく、沢山はないのである。昔の教師は、わずかの期間にたくさんのことを詰め込んでではないと考えていたのである。(これは賢明なことと思う。)これが私どもの昔の教育制度のすぐれた特徴の一つだった。

4. 「歴史」「詩」「礼儀作法」もある程度教えられたが、おもに教えられたのは「道徳」、それも実践道徳であった。観念的、あるいは神智学的、神学的な道徳は、私どもの学校では決して強いられなかった。

5. さらに私どもは、クラス(身分階級)に分けられて教えられることもなかった。魂をもつ人間をオーストラリアの牧場の羊のようにクラスに分けるようなことは、昔の学校ではみられなかった。人間は分類してまとめることはできないもの。一人一人、つまり顔と顔、魂と魂とをあわせて扱われなくてはならないと、教師は信じていたように私には思われるのだ。

それだから教師は私どもを一人一人、それぞれのもつ肉体的、知的、霊的な特性にしたがって教えたのである。

6 . そのため、当然、教師と生徒の関係はもっとも濃(こま)やかだった。教師を、あの近づきがたい名称である教授と呼ぶことはなかった。先に生まれたことを意味する「センセイ」と呼んだ。この世に生まれた時点で先——必ずしもそうでないこともあったが——であるのみならず、真理を先に了解した点で、先に生まれたことになるからである。

その結果、センセイには最高の敬意がはらわれていた。それは、両親や藩主に対する尊敬と変わりなかった。実にセンセイと両親とキミ(主君)は、深い尊敬をはらうべき対象の三位一体をなしていた。

7 . 私どもは、古いものがあらゆる面で新しいものより優(すぐ)れていると言うわけではない。ただ、古いものが必ずしもすべて悪いものではなく、新しいものが必ずしもすべて良いものでも完全なものでもないと言うにすぎない。

新しいものには、まだ改良される余地があり、古いものには、まだ再活用される要素があるのである。

また、古いものを捨て去り新しいものを全面的に受け入れよ、ということは納得できない。

P108 ~ 115

中江藤樹 - 村の先生 -

1 . 天子から庶民にいたるまで、人の第一の目的とすべきは生活を正すことである。

P116

2 . (1)人はだれでも悪名を嫌い名声を好む。

(2)小善が積もらなければ名はあらわれないが、小人は小善のことを考えない。

(3)だが君子は、日々自分に訪れる小善をゆるがせにしない。

(4)大善も出会えば行う。ただ、求めようとしただけである。

(5)大善は少く、小善は多い。

(6)大善は名声をもたらすが、小善は徳をもたらす。

(7)世の人は、名を好むために大善を求める。しかしながら名のためになされるならば、いかなる大善も小さくなる。

(8)君子は多くの小善から徳をもたらす。実に徳に勝る善事はない。徳はあらゆる大善の源である。

3 . (1) 「 学 者 」 と は 徳 に よ っ て 得 ら れ る 名 で あ っ て 、 学 識 に よ る の で は な い 。

(2) 「 学 識 」 は 学 才 で あ っ て 、 生 ま れ つ き そ の 才 能 を 持 つ 人 が 、 学 者 に な る こ と は 困 難 で は な い 。

(3) し か し 、 い か に 学 識 に 秀 で て い て も 、 徳 を 欠 く な ら 学 者 で は な い 。

(4) 学 識 が あ る だ け で は 、 た だ の 人 で あ る 。

(5) 無 学 の 人 で も 徳 を 得 た 人 は 、 た だ の 人 で は な い 。 学 識 は な い が 学 者 で あ る 。 P123

4 . 利 益 を あ げ る こ と だ け が 人 生 の 目 的 で は な い 。 そ れ は 、 正 直 で 、 正 し い 道 、 人 の 道 に 従 う こ と で あ る 。

5 . 男 の 女 に 対 す る 関 係 は 、 天 の 地 に 対 す る 関 係 と 同 じ で あ る 。 天 は 力 (wirtus) で あ り 、 万 物 は 天 よ り 生 じ る 。 地 は 受 け る 側 で あ り 、 天 の 生 む も の を 受 け 、 こ れ を 育 て る 。 こ こ に 夫 と 妻 の 和 も あ る 。 前 者 は 生 み 、 後 者 は 成 す 。 P130

6 . 徳 を 持 つ こ と を 望 む な ら 、 毎 日 善 を し な け れ ば な ら な い 。 一 善 を す る と 一 悪 が 去 る 。 日 々 善 を な せ ば 、 日 々 悪 は 去 る 。 昼 が 長 く な れ ば 夜 が 短 く な る よ う に 、 善 を つ と め る な ら ば 、 す べ て の 悪 は 消 え 去 る 。 P135

7 . こ の 村 の 近 く で も 、 父 は 子 に や さ し く 、 子 は 父 に 孝 養 を つ く し 、 兄 弟 は た が い に 仲 良 く し て い ま す 。 家 で は 怒 声 は 聞 か れ ず 、 だ れ も が 穏 や か な 顔 つ き を し て い ま す 。 こ れ は す べ て 藤 樹 先 生 の 教 え と 、 後 世 に 遺 さ れ た 感 化 の 賜 物 で す 。 私 ど も は だ れ も が 、 先 生 の 名 は 感 謝 を も っ て 崇 (あ が) め て い ま す 。

8 . 谷 の 窪 に も 山 あ い に も 、 こ の 国 の い た る と こ ろ に 聖 賢 は い る 。 た だ そ の 人 々 は 自 分 を 現 さ な い か ら 、 世 に 知 ら れ な い 。 そ れ が 真 の 聖 賢 で あ っ て 、 世 に 名 の 鳴 り 渡 っ た 人 々 は と る に 足 り な い 。 P140

[コメント]

昔の学校とは、江戸時代の藩校のことかと思う。昔の学校といい、中江藤樹先生といい、教育とは何かを考える原点を内村鑑三先生はお教え下さった。民間経済団体国際会議に参加のためヨハネスブルクに来て、その会議の合間にこの文章を書き抜かせて頂いているが、教育関係者(役人と校長)の腐敗により、学校の建物が建たず、先生が集まらず、教材や教具が届かず、子供たちが学校に来れない状況を見聞きして、もう一度、江戸時代の教育システムを南アフリカ教育関係者と学び直したい衝動にかられている。

- 2009年11月3日ヨハネスブルクにて記す 林明夫 -